



【韓国】 総合指数は週間で0.05%高と小反発、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.05%高と小幅に反発。週前半は米国債利回りの不安定な動きが嫌気されたほか、欧州で新型コロナウイルスの変異株の感染が拡大し、ロックダウン（都市封鎖）が広がったことで軟調に推移。週明け22日から24日まで下げが続いた。ただ、米国でイエレン財務長官とパウエルFRB議長が議会に対して経済への信頼感を示したことを受け、景気回復への期待が改めて高まると、韓国でも投資家心理が改善。25日は5営業日ぶりに反発した。韓国国会が中小企業やコロナで打撃を受けた国民への支援、雇用対策の強化を盛り込んだ大規模な補正予算案を可決したことも重なり、26日は前日比1.1%高と続伸した。今週は心理的節目の3000ポイント付近でもみ合いか。ドル高に伴う資金流出リスクが意識されそうだ。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.6%安と続落、今週も経済制裁への警戒感が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.6%安と続落。原油安やコロナ感染拡大などの外部環境の悪化に加え、ロシアに対する経済制裁への懸念が重しとなった。指数は週明け22日に前営業日比0.4%安、23日に2.2%安と大幅続落。原油安や欧州でのコロナ感染の拡大に加え、西側諸国による対ロ制裁への警戒感も嫌気された。25日も海外株安を受けて1.4%安となり、2月末以来の水準まで下落した。26日は2.3%高と大幅に反発し、週の下げ幅を縮めた。ルーブルが対米ドルで2%超下落したこともドル建て指数を押し下げた。個別ではノバテクが6.4%、ロスネフチが3.9%、ズベルバンク・オブ・ロシアが2.0%上昇した一方、素材のポリユスが2.6%、ノリリスク・ニッケルが2.1%下落した。今週も対ロ制裁懸念が上値を圧迫するか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.7%安と4週ぶりに反落 今週は底堅い展開か

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.7%安と4週ぶりに反落。高値警戒感を背景に金融などの主力優良株に利益確定売りが強まった。前週まで3週続伸し、2018年4月に付けた過去最高値までわずかに迫ったVN指数は週明け22日にほぼ横ばいとなったが、金融株などが益確定売りに押され、23日に前日比0.9%安、24日に1.8%安と続落した。指数は26日も一時的に前日比2.2%安の1137.90ポイントと、2月17日以来の安値水準まで下落。ただ、その後は押し目買いが強まり、0.1%安と下落幅の大半を回復して終了した。個別では、ゴム製品のベトナム・ラバーが9.0%安、金融のベトナム投資開発銀行が6.4%安、テクコムバンクが6.2%安、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が3.9%安となり、指数を押し下げた。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート

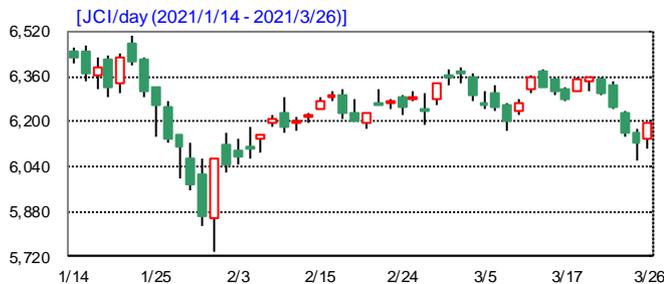


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.5%安、新型コロナウイルスの世界的感染拡大を不安視

ジャカルタ総合指数は週間で 2.5%安と続落。国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開となった。週初の 22 日は、インドでの新型コロナウイルスの感染者数急増などが嫌気され、指数は 3 営業日ぶりに反落。24 日は前日の NY ダウが欧州での感染拡大を受けて反落した流れを引き継ぎ、前日比 1.5%安と終値で 6200 ポイントを割り込むと、25 日まで 4 日続落した。ただ、26 日は中国株の上昇に連動して買い戻され、前日比 1.2%高と反発して引けている。今週は 1 日に 3 月の CPI が発表される予定。外部要因では中国の 3 月の製造業 PMI が意識されそうだ。2 日はグッドフライデーのため休場。

▼指数チャート

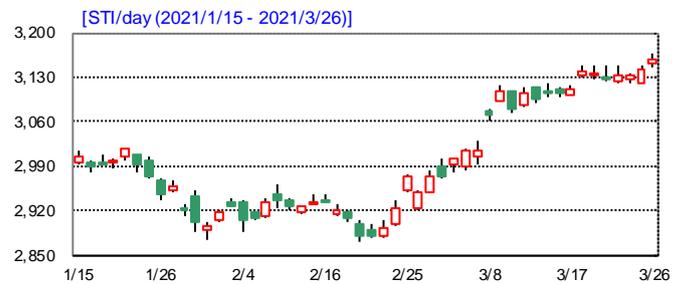


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%高、2 月のコアインフレ率がプラス圏に回復

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%高と 5 週続伸。週初に下落したものの、その後はじりじりと上値を広げた。22 日は前週末に開催された米中外交トップ会談を受けて、両国の関係悪化に対する懸念が広がった影響で指数は続落。一方、23 日は 2 月のコアインフレ率が 13 カ月ぶりに前年の水準を上回った効果で小幅反発した。週半ば以降も堅調で、26 日は前日の NY ダウが景気回復への期待感から反発したほか、2 月の鉱工業生産が前年同月比 16.4%増と堅調だったことが好感されて、4 日続伸している。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。2 日はグッドフライデーのため休場。

▼指数チャート

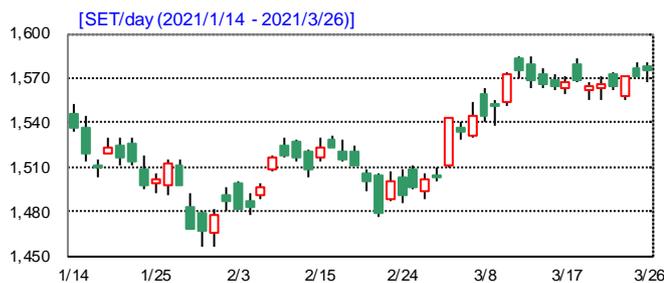


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%高、113 億米ドル規模の経済支援策を好感

SET 指数は週間で 0.7%高と反発。小幅なレンジでの値動きが続いた 1 週間だった。週前半は国内のイベントが少なく方向感に乏しい展開となったが、24 日は新型コロナの影響を受けた企業に対する支援策として、閣議で約 113 億米ドルの財政出動が決まった効果で反発。25 日は 2 月の貿易収支（通関ベース）が市場予想から上振れしたことが買い材料視されると、26 日まで 3 日続伸して取引を終えた。今週は 31 日に 2 月の鉱工業生産が発表される予定で、3 カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば好材料。外部要因では 1 日開催の OPEC プラス閣僚級会合で議論される 5 月の協調減産幅が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%安、世界経済の先行き不透明感を嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 1.5%安と 4 週ぶりに反落。1600 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 22 日に続落すると、23 日は中央銀行総裁が更迭されたトルコの通貨リラ急落など、世界経済の先行き不透明感が嫌気され、前日比 1.3%安と約 3 週間ぶりに終値で 1600 ポイントを割り込んだ。24 日は 2 月の CPI 上昇率が前年同月比 0.1%と 1 年ぶりにプラス圏に回復した効果で反発。25 日はパーム油価格の下落が響き、反落したが、26 日には買い戻されて取引を終えている。今週は 29 日発表の 2 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。前週末の NY ダウが過去最高値を更新したことは株式相場の追い風か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。